（4）南　関　東

南関東地域では、景気は弱含んでいる。

- **鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。**
- **個人消費は弱含んでいる。**
- **雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。**

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（__は上方に変更、__は下方に変更）。

前回調査からの主要変更点

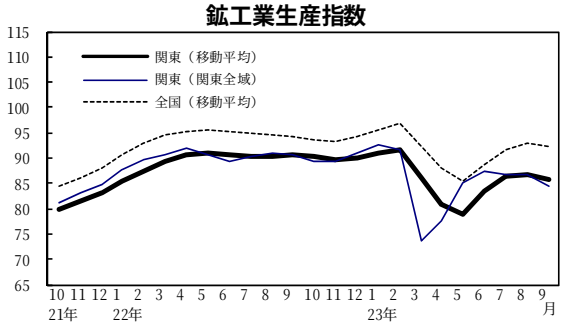
	前回（平成23年８月）	今回（平成23年11月）	
景況判断	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直しの動き	弱含み	↓
鉱工業生産	持ち直し	おおむね横ばい	↓
個人消費	持ち直しの動き	弱含み	↓
住宅建設	大幅に増加	増加	↓
雇用情勢	東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	↑

１．生産及び企業動向

（１）鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

輸送機械は、部品の調達不足が解消したことから大きく増加している。一般機械は、８月に中国向けの数値制御ロボットが減少したことや、世界的な半導体市況の停滞により半導体製造装置が低下したことから横ばいとなっている。電気機械は電気冷蔵庫、医用X線装置、セパレート形エアコン等が減少している。

鉱工業生産指数



（備考）１．17年＝100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
２．全国及び関東の太線は後方３か月移動平均。

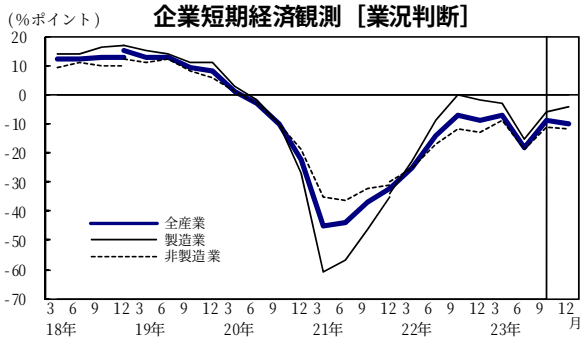
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比)　(%)

	付加価値ウェイト	生産 4～6月期	生産 7～9月期	出荷 7～9月期	在庫 7～9月期
輸送機械	15.2	▲10.7	23.5	26.8	19.4
化学	13.4	▲ 5.9	―	―	―
一般機械	13.2	6.3	0.1	0.7	6.5
電気機械	7.8	0.6	0.2	▲ 2.3	6.6
食料品・たばこ	7.1	2.9	―	―	―
鉱工業	100.0	▲ 3.0	3.1	4.4	3.7

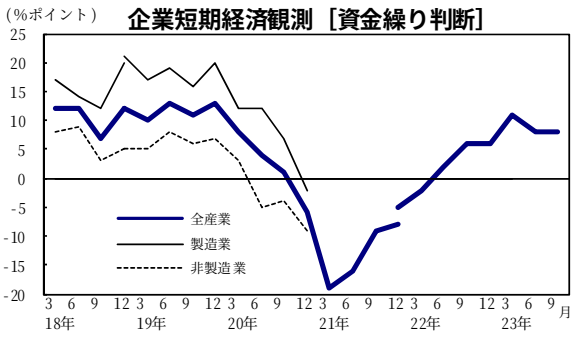
（備考）１．地域における付加価値ウェイトの高い５業種。
２．７～９月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

（2）企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

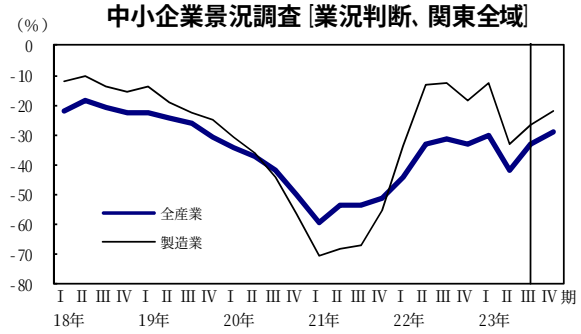
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



（備考）「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域（新潟県を含む）。



（備考）「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。



（備考）「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年Ⅳ期は見通し。

②景気ウォッチャー調査（10月）［企業動向関連（現状）］

「クライアントからの受注も安定してきたと感じるが、まだまだ厳しい状況は変わらない（出版・印刷・同関連産業）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

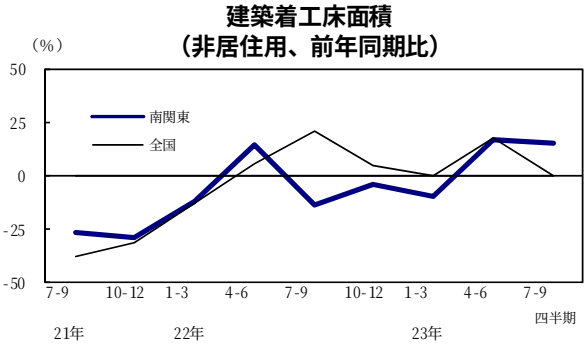
（3）23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査［設備投資（9月調査）］

（前年度比、%）

	22年度実績	23年度計画
全産業	▲12.8	12.0(▲7.9)
製造業	▲10.7	9.8(▲10.0)
非製造業	▲17.8	17.9(▲2.2)

（備考）（ ）は前回（6月）調査比修正率。
調査対象は神奈川県。



２．需要の動向

（１）個人消費は弱含んでいる。

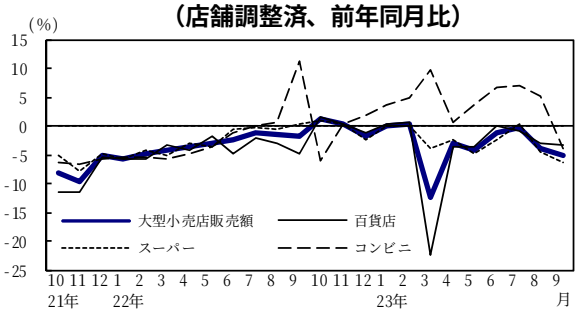
①大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.8%減、前期比で0.1%増となった。
百貨店は、７月は、都内で例年開催される花火大会などが相次いで中止・延期となったため浴衣等の売上が伸びなかったことや、下旬の天候不順の影響から２か月ぶりに前年を下回った。８月は、中旬以降の天候不順と日曜日が１日少なかったことから入店客数が減少し、２か月連続で前年を下回った。９月は、企業等のクールビズ対応期間の延長により特に秋物の紳士服の売上が減少したことから３か月連続で前年を下回った。
スーパーは、たばこが昨年の増税前の駆け込み需要の反動により減少したことから、前年を下回った。

②景気ウォッチャー調査（10 月）[家計動向関連（現状）]

「ひところに比べて解約も少なくなっているが、反面、新規契約も伸びていない。悪い意味で平行線という感じである（通信会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

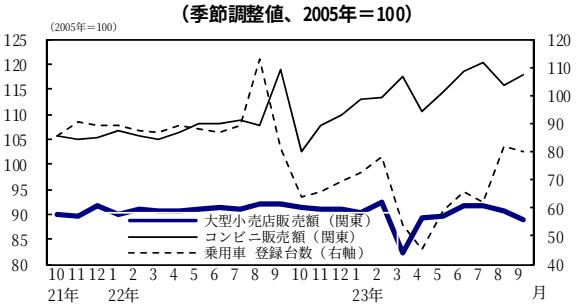
大型小売店販売額等
（店舗調整済、前年同月比）



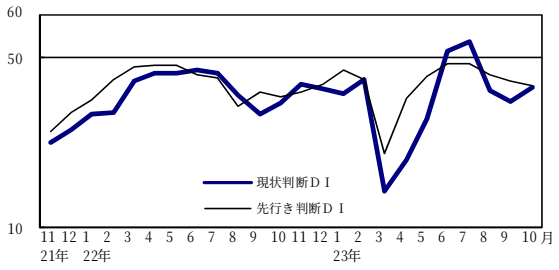
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	▲0.2	▲4.3	▲2.8	▲2.8
百貨店(*1)	0.1	▲7.7	▲2.3	▲2.2
スーパー(*1)	▲0.5	▲1.3	▲3.1	▲3.3
大型小売店(*2)	0.5	▲3.8	▲1.9	▲2.3
(季節調整値)(*3)	(▲0.6)	(▲3.1)	(2.1)	(0.1)
乗用車(*4)	▲24.9	▲24.9	▲34.1	▲19.7
(季節調整値)(*4)	(▲29.6)	(2.7)	(▲16.8)	(31.0)

(備考) 1．南関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、7-9 月は速報値
2．南関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、7-9 月は速報値
3．関東全域、店舗調整前、前期比(%)
4．乗用車は新規登録・届出台数
（上段：前年同期比、下段：前期比、%）

大型小売店、コンビニ販売額、乗用車登録台数
（季節調整値、2005年＝100）



景気ウォッチャー調査（家計動向関連）

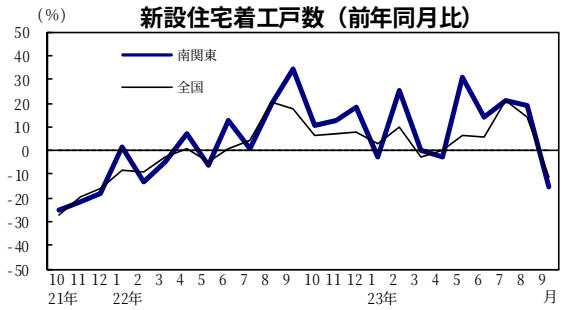


（２）住宅建設は増加している。

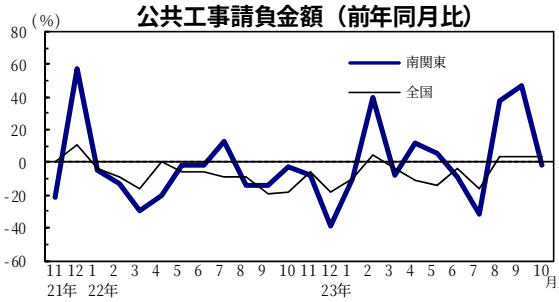
貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

（３）公共投資は 23 年度累計でみると前年度とほぼ同水準である。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



公共工事請負金額（前年同月比）



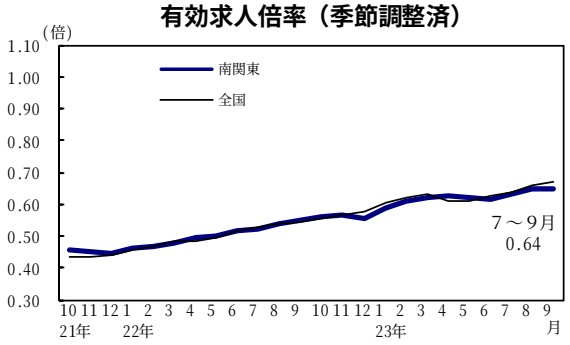
３．雇用情勢等

（１）雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

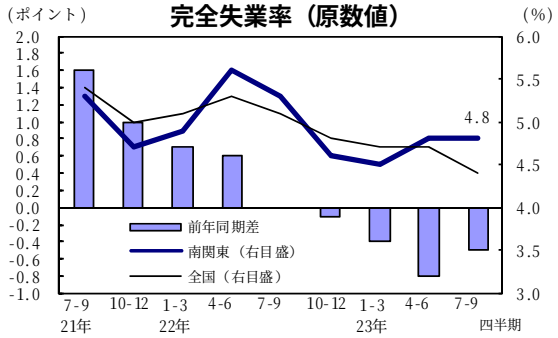
①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

有効求人倍率（季節調整済）



完全失業率（原数値）



②景気ウォッチャー調査（10 月）［雇用関連（現状）］

「最近になって海外での様々な問題から需要や生産に対する不安が出てきており、採用の動きにも若干影響が出てきている（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

（２）企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

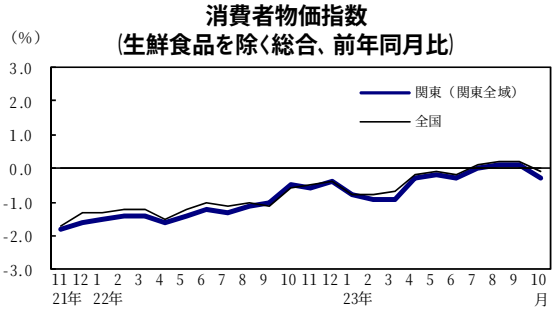
（３）消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

（件、億円、%）

	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	1,087	1,009	1,025	1,023	298
（前年比）	4.5	▲13.1	▲ 8.3	▲ 1.4	▲17.5
負債総額	3,255	2,288	1,822	3,669	556
（前年比）	10.5	▲91.9	▲60.1	▲72.8	▲65.1

消費者物価指数
（生鮮食品を除く総合、前年同月比）

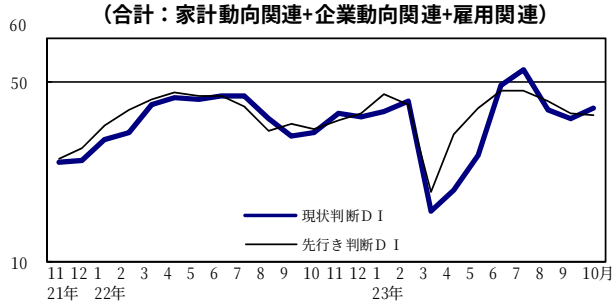


○ 景気ウォッチャー調査（10 月）［合計（特徴的な判断理由）］

＜現状＞

・冬に向かって料理屋は売上が上がってくる時期であり、当店の来客数も増えてきている。単価的にも前年と比べてそれほど落ち込んでいる感じはないため、国内消費が少しずつだが巡航速度になってきている（一般レストラン）。

＜先行き＞

・今月の状態はそれほど際立って良いわけではないので、このままこの調子が続き、変わらない（一般小売店［文房具］）。

景気ウォッチャー調査
（合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連）